

「金型の日」を迎えるにあたって

一般社団法人日本金型工業会

会長 牧野 俊清

日本金型工業会は今年で第43回「金型の日」を迎えることができました。これもひとえに会員企業、関連業界の皆さまのご支援とご協力の賜であると深謝申し上げます。

昭和32年設立ですので、設立後59年と、還暦を迎える1年前となります。

日本の金型業界はリーマンショックによる世界同時不況の影響により大打撃を受けましたが、2010年の底から自動車用を中心に少しずつですが回復を続けています。しかしながら、2007年と比較して、まだ8割を超えたところではあります。

懸念を感じますのは、我々の需要業界である素形材産業の景況が、一昨年10月くらいより良くないことです。中国の状況が改善されず、資源国始め世界経済に悪影響を与えています。英国のEU離脱、米国新大統領による施政と不安定要素を抱えています。

昨年6月125円/US\$との円安基調もユーザー企業の海外進出（現地調達）により、効果が少ないまま、本年は円高基調となり8月には100円/US\$を切り、現在小康状態となっています。グローバルに目を向けざるを得ない環境といえます。

経済産業省では、中小企業等経営強化法等「稼ぐ力」に志向されています。次世代が産業構造の変換の中で生き残り発展するためには必要なことだと思います。「IoT」(Internet of Things)とか「インダストリー4.0」の活用が重要視されていますが、金型企業のモノづくり精神により「稼ぐ力」に転化ができればよいと思います。

2014年に「新金型産業ビジョン」を作成いたしました。営業力(提案力)、海外展開、周辺分野への事業展開、人材確保・人材育成、技術研究開発、連携・提携のキーワードの重要性はさらに高まっています。

日本金型工業会も金型関連の唯一の全国団体として、産学官一体となって日本のモノづくり、日本の金型産業をなんとかしなければなりません。会員企業、関連団体、官公庁の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。